

11月14日 自立教育部門7 「挨拶をしても返ってこない場合の対応」

挨拶をしても返ってこない生徒に出会うことは、教師にとって珍しいことではないでしょう。

挨拶が苦手な生徒は、発達障害（ASD、ADHD、場面緘黙）など、それぞれの特性が影響している可能性があります。挨拶ができない理由や状況は、それぞれの生徒によって異なります。

【発達障害と挨拶が苦手な理由や状況】

- ・A S D：状況判断や他者の感情を察するのが苦手、タイミングや挨拶の必要性が分かりにくいです。ルール化したり具体的な見本を示したりすることで改善が期待できます。
- ・A D H D：衝動的な特性から、他のことに気が向いてしまい挨拶を忘れることがあります。興味を引くものを減らし、成功体験を褒めることが有効です。
- ・場面緘黙：特定の場面で不安や緊張により声が出なくなります。安心できる環境作りが大切です。

【対応のポイント】

1. 小さな進歩を褒める。
2. 周囲に特性への理解を求める。
3. 具体的な見本を示す。
4. 挨拶の失敗を責めず、挑戦を受け入れる。

発達障害の生徒に対しては、挨拶を教える際に配慮が必要です。障害特性に寄り添い、具体的な指導と理解をもって接することが、生徒の自信を育み、挨拶を自然に身につけさせる鍵となります。